

指定校番号	28083	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎中学校	校長	松脇 守弥	生徒指導主事	山縣 雅樹
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒会オリエンテーション・対面式など、年度初めの生徒会取り組み』

取組のねらい 『キーワード リーダーシップと所属感の育成』

生徒主導の意識をもたせて生徒会の取り組みをすすめることにより、生徒同士のつながりが強くなり、所属感の育成へとつなげるねらいをもっています。また、生徒会執行部や各部活動の部長を中心に主体的な動きを促すことにより、リーダーシップの育成を図りたいと考えています。

取組の具体的内容 『キーワード 生徒主導ですすめるオリエンテーション』

入学式からの1週間以内で、生徒会執行部や各部活動部長が主導で新1年生を迎え入れる取り組みを行います。具体的には生徒会活動、掃除の仕方、部活動のオリエンテーション、新1年生を歓迎する会（対面式）などを行います。中学校での毎日の動きや、生徒会活動について、教師主導ではなく、生徒会の生徒主導で新1年生に伝え、親近感を持たせるようにしています。部活動オリエンテーションでは、部活動の魅力を各部長が中心に活動を見せ、興味を一層引き立たせるようにしています。対面式では生徒会執行部が中心となり、中学校生活に関するクイズやゲームをしていき、新1年生が中学校生活への不安を乗り越えられるようなアイスブレイクとなる時間を作り出します。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 生徒主導のために、事前の生徒同士・教師側の取り組み』

入学式から1週間以内で、新1年生に対して様々なアプローチを生徒主導で行っていきませんが、前年度から生徒会執行部、学級、部活など、計画的にそれぞれの役割を分担して新年度を迎えます。生徒の動きがスムーズに進められるよう、教師が事前に生徒とともに準備を考え、取り組みを支えるようにしていきました。



取組の成果（効果）『キーワード 学年を越えた生徒同士のつながり』

小規模校なので、一人ひとりの存在、行動が大きなムーブメントになる可能性を秘めています。学校入口には『家族のようにつながりあう亀崎中学校』というスローガンが掲げられているように、年間を通して様々な行事や取り組みで、学年を越えた関わりが多くあります。そのきっかけとなる年度当初の大切な生徒会活動だと言えます。



今後の展開『キーワード 生徒指導の三機能の充実』

教師主導よりも、生徒が主体的に動き、生徒同士のつながりを深めていくことで、今後の生徒会活動が一層意味のあるものになっていくと考えられます。新1年生の安心感を醸成することにも影響を与え、共感的な人間関係にもつながり、さらに2、3年生にとっては、生徒指導の三機能にある自己存在感・自己決定の育成につながるものだと考えます。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒主導を仕組むことと、生徒任せにするものの認識のずれを起こさないようにする』

生徒主導でオリエンテーションや対面式等を行っていきませんが、取り組みの成果を生徒に味わわせるためには、生徒が主体的に当日の会を進めていくための細かな準備、手立てやこの活動による目指しているものは何かということを常に教員同士が確認し、共通認識が事前にできている必要があります。